

全国万引犯罪防止機構 臨時総会・シンポジウム（1月27日）

{私の感想コメント}

福島県警の小泉さん～万引き防止のアドバイザー（高齢者727人）を委嘱し防犯活動や店舗パトロール活動を行い、大きな防止効果を上げていること。モデル店の指定で相乗効果が高まったことは注目すべきです。

山口県警の石井さん～県民一体となった万引き防止対策の事例として興味を注がれたのは①少年リーダーズによる「C・C作戦」が店側と協力して、万引きをさせない環境作りに貢献していること②防犯ボランティア団体による店舗巡回で、女性隊員は腕章をして買い物をしていることで万引き防止に貢献している。

さらに、感心したのは、小学生の万引き防止の標語「万引きはあなたの未来も盗みます」。この標語を全国で活用すべきです。ついでに、高齢者向けの標語を募集して、優秀作品を活用すべきです。

文具・駄菓子店の富田さん～いわゆる零細小売店の万引き犯罪に対する切実な悩みや深刻な苦悩をはなされました。富田さんは子供たちの万引きを減らすために「日頃から家庭や学校で万引きについて考える機会を増やすことが必要だ」と考えて、無料講演会を実施。山口県警の標語を店内に掲示されてはいかがでしょうか。

ジュンク堂書店の難波さん～他の書店と連携して、被害届の提出を徹底し、被害者同士の意識をたかめること。対応方法を同業で共有し、古本の買い取りリストの把握と防止策を検討中。

私が4人のパネリストの熱心な話を聞いて感じたことを申し上げます。

（会議で以下のポイントを話しました）

万引き防止を推進するうえで小売業者、地域のコミュニティ、行政がそれぞれの立場で活動されています。この活動の実効を高めるためには小売業者側の「自助努力」、地域コミュニティの「共助努力」、そして行政側の「公助」が連携して万引き撲滅に効果的な役割を果たすことです。行政である警察側の意識高揚も大切ですが、何より被害者側の小売業者の自助努力の中で、犯罪者側になる地域コミュニティの共助を引き出す対応がとても大切です。本日のパネリストの皆さんから、すぐに採用できる事例が沢山ありました。協力して万引き防止を推進しましょう。

土方 清